

2014年度学校自己評価(中学校・高等学校)の報告

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2014年度に実施した「学校自己評価」の内容をご報告いたします。

(1) 報告までの概要

学院に学校自己評価委員会を設置し、前年度の結果をふまえて内容の再検討を行ない、「学校自己評価アンケート」を作成した。調査対象は学院の中高の教職員(非常勤講師は除く)とし、1月末に実施、2月に集計、3月に理事会に報告した。

(2) 評価項目と評価方法

I : 評価項目

学校運営、教育内容、生徒指導・支援、教員研修・資質向上の4つの項目に分類し、それぞれについての評価の観点項目を設けて実施した。

II : 評価方法

4段階の評価を行った。

A : よくあてはまる

B : ややあてはまる

C : あまりあてはまらない

D : まったくあてはまらない

(3) 重要テーマと重点目標(ねらい)

I : 重要テーマ: 命を育む女子教育

II : 重点目標(ねらい): 認め合い、許しあう心をみんなのなかに

今年度の中学校・高等学校の目標を、「認め合い、許し合う心をみんなの中に」とし、お互いの優れた所を素直に認めて謙虚に見習う姿勢を持ち、一方、お互いの過ちやミスを許し合い・支え合うという姿勢で学校生活を送ることを意識することにより、謙虚さと思いやりに満ちた、広く・優しい心を育む事を目指した。

(4) 項目別評価と分析

I : 学校運営: 私学の独自性

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
私学の 独自性	1 建学の精神について	15.0%	76.7%	8.3%	0.0%	91.7%	93.0%	93.6%
	2 愛校心について	21.7%	65.0%	13.3%	0.0%	86.7%	94.8%	95.1%
	3 カトリックの教えに基づく教育	21.7%	73.3%	5.0%	0.0%	95.0%	94.7%	91.9%
	4 家庭との連携	13.3%	78.3%	6.7%	1.7%	91.6%	89.5%	90.3%

< 1・3 >

「建学の精神」や「カトリックの教えに基づく教育」は保護者・生徒の間に浸透しており、日々の朝終礼や宗教行事・授業に積極的に参加をしている。またクリスマス祭などの宗教行事に参加する保護者も多くなっている。

< 2 >


「愛校心」の項目が昨年比-8.1%となっており、教員が生徒の愛校心が減少していると感じている。これは、種々の理由があったが、転学生が例年に比べると多くなったことが原因と思われるが、入学した生徒をできる限り、卒業までもっていくように心を配らなければならない。

< 4 >

現代のさまざまな価値観をもつ「家庭との連携」は難しいことであるが、本校の教育方針を理解してもらい、かつ保護者の要望にこたえることができるように努力している。

I : 学校運営: 教科課程

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない



評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
教科課程	5 教育計画について	38.3%	58.3%	3.3%	0.0%	96.6%	94.7%	88.5%
								

< 5 >

「教育計画」は前年度とかわらず、高い数字であるが、今後も年間計画をしっかりと立て実践していかなければならない。

I : 学校運営: 教職員連携

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
教職員 連携	6 教員・教科間連携状況	20.0%	63.3%	16.7%	0.0%	83.3%	86.0%	79.1%
								
	7 会議の有効性	1.7%	61.7%	33.3%	3.3%	63.4%	66.7%	66.1%
								

< 6 >


「教員・教科間の連携」については若干の減少である。教科主任を中心としてもっと連携を強める必要がある。

< 7 >

「会議の有効性」についてはこれまでも問題にしてきたが、中々上がっていない状況である。会議の議題提示や資料の配布が遅く、十分な検討ができないで開催されていることにあると思われるので、この点を改善したい。

I : 学校運営: 財務関係

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない



評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
財務関係	8 財務に関する意識と財務状況	3.3%	66.7%	26.7%	3.3%	70.0%	70.2%	66.2%
								

< 8 >

年度初めに「財務状況の提示」を行ない全教職員に現状を報告しているが、まだまだ十分には理解されていないようである。

I : 学校運営: 情報公開

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
情報公開	9 ホームページの活用状況	30.0%	60.0%	10.0%	0.0%	90.0%	96.5%	91.9%
								
	10 授業公開状況	48.3%	50.0%	1.7%	0.0%	98.3%	96.4%	98.4%
								

< 9 >

「ホームページの活用状況」が若干下がっているのは、更新がスピーディーでないことが原因であり、これを解消したい。

< 10 >

「授業公開」を1週間という長い期間に設定することによって、保護者の参観を容易にしたことが高い数値となった。

I:学校運営:危機管理

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
危機管理	11 役割分担について	30.0%	60.0%	8.3%	1.7%	90.0%	93.0%	88.7%
	12 危機管理対応状況	15.0%	73.3%	10.0%	1.7%			

<11>

学院全体や各部署の「危機管理マニュアル」を作成し、役割を示している。

<12>

「危機管理」対策として幼稚園から短期大学までの全学院生と教職員の合同訓練や、各校別の避難訓練を実施しているが、まだまだ十分とはいえない。

I:学校運営:開かれた学校づくり

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
開かれた学校づくり	13 地域交流について	11.7%	70.0%	18.3%	0.0%	81.7%	77.2%	83.9%

<13>

私学であるので地域との関係はあまり深くないが、城東区と連携して学院施設の開放などを行なっている。また今年度は創立130年記念の年であり、地域の人々も参加した行事も行なったことが、若干のプラス要素になったと思われる。

II:教育内容:情報教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
情報教育	14 情報教育に関する危機管理	11.7%	65.0%	23.3%	0.0%	76.7%	84.2%	72.1%

<14>

「情報教育」に関してはLINEなどによる問題が起こっており、学校が現在の情報に対応しきれていない部分がある。今後は警察やN T Tなどから招いて講習会などを考えている。

II:教育内容:人権教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
人権教育	15 研究体制	15.0%	63.3%	21.7%	0.0%	78.3%	82.4%	80.7%
	16 教育体制	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%	93.3%	84.3%	85.4%

<15>

定期的に研修会を開くなど、研究体制は進めてはいるが、外部研修会に参加した内容の共有が十分ではなかった。

<16>

宗教教育とともに人権教育も、カトリック学校として力を入れているところである。今年度は今の生徒たちの状況に応じた人権教育の講習会を開くことができ、意識の向上に繋がった。

II:教育内容:環境教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
環境教育	17 環境問題意識向上	13.3%	53.3%	31.7%	1.7%	66.6%	64.9%	54.8%
	18 実践的態度の育成	33.3%	65.0%	1.7%	0.0%			

<17>

「環境問題意識向上」のため省エネなどの取り組みを行なっているが、校舎そのものが省エネ対応になっていないなど、ハード面の問題があり若干のプラスではあったが、全体として低い結果となった。

<18>

生徒による清掃活動によって校内美化を進め、施設・設備を大切にしている心が養われている。

II:教育内容:教科指導

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
教科指導	19 理解度の把握	10.0%	85.0%	5.0%	0.0%	95.0%	98.3%	83.7%
	20 能力の伸長	16.7%	73.3%	10.0%	0.0%			
	21 教育機器の利用	20.0%	56.7%	23.3%	0.0%			
	22 模試などの分析活用	18.3%	68.3%	11.7%	1.7%			

<19>

さまざまな能力の生徒たちではあるが、「ひとり一人を大切に」の心で生徒の「理解度の把握」に努めている。

<20>

最大限に「能力の伸長」をはかるため、少人数授業や習熟別授業を取り入れているが、まだ効果が十分とはいえない。

<21>

「教育機器の利用」の項目が随分と下がった。これは折角導入しながらも故障したまま放置しているなど、日頃のメンテナンス不足から十分に活用できなかったことが要因と思われる。

<22>

「模試などの分析」の機会を定期的に関き、効果的な指導の方法を展開しているが、学年によって差がでている。

II:教育内容:その他

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
その他	23 読書推進	11.7%	53.3%	31.7%	3.3%	65.0%	64.9%	62.9%
	24 部活動	50.0%	43.3%	6.7%	0.0%	93.3%	93.0%	91.9%
	25 ボランティア	43.3%	55.0%	1.7%	0.0%	98.3%	94.6%	87.1%
	26 学校行事	43.3%	55.0%	0.0%	1.7%	98.3%	96.5%	96.8%
	27 スポーツ・芸術文化	33.3%	61.7%	5.0%	0.0%	95.0%	98.2%	88.7%
	28 生徒会活動	16.7%	60.0%	21.7%	1.7%	76.7%	78.9%	68.9%
	29 国際理解	16.7%	63.3%	18.3%	1.7%	80.0%	77.2%	78.7%

<23>

幼稚園から短大まで利用できる図書館があるので、図書館を利用促進を行ったが、「読書推進」には十分に反映されていない。

<24>

「部活動」は活発であるが、生徒数に対し部の数が多く、少数の部活が多くなっている。

<25>

長期的な観点からの東北への被災地支援など「ボランティア」活動に対する関心は高い。

<26>

体育大会・文化祭・宗教行事など「学校行事」は活発である。中でも中学生全員が参加する「かるた大会」は非常に興味深い。

<27>

「スポーツ・芸術文化」に関する行事を計画的に取り入れている。

<28>

「生徒会活動」は少し低調であり、生徒会が活躍する場をもっと多くしなければならないと考えている。

<29>

オーストラリアの姉妹校のラザーホール高校との交流や海外研修など、「国際理解」を深める機会を設けているが、全生徒に関わる点が少ないようである。

Ⅲ:生徒指導・生徒支援

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
生徒指導	30 指導方針の一貫性と生活指導	28.3%	58.3%	13.3%	0.0%	86.6%	87.7%	85.5%
	31 家庭との連携状況	28.3%	66.7%	5.0%	0.0%	95.0%	86.0%	91.8%
生徒支援	32 学習指導について	20.0%	76.7%	3.3%	0.0%	96.7%	91.1%	86.9%
	33 進路指導について	25.0%	71.7%	3.3%	0.0%	96.7%	89.3%	90.1%

<30>

「指導方針の一貫性」は学校の方針によって定まっており、かつ個々の生徒の状況に応じた生活指導を組織的に行なっている。

<31>

「家庭との連携」は学級担任を中心とした教員の細かな対応が、高い数字に表れていると思われる。

<32>

「学習指導」は補習の充実を今まで以上に図ったことがプラス要因であると思われるが、この点に関しては毎年度何か工夫を加えながら、「今」に即応したものにならなければならない。

<33>

「進路指導」はコース別の細やかな指導体制が実を結んでいると思うが、本校の生徒の傾向として、能力がありながら、高いチャレンジをしようとしなないことは大きな問題と捉えている。

Ⅳ:教員研修・資質向上

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	2012年度 (A+B)
教員研修	34 教員の資質向上について	20.0%	76.7%	3.3%	0.0%	96.7%	89.5%	80.7%
	35 校内研修	16.7%	66.7%	15.0%	1.7%	83.4%	80.4%	88.7%
	36 初任者のサポート状況	8.5%	42.0%	44.1%	5.1%	50.5%	49.1%	54.8%
	37 校外研修	6.7%	51.7%	38.3%	3.3%	58.4%	54.4%	48.4%
	38 研修成果の共有状況	5.0%	46.7%	46.7%	1.7%	51.7%	51.8%	46.8%

<34>

「教員の資質向上」は校内研修の実践として教員間の教科を越えた授業観察を行なうことによって、情報交換をより進めた結果である。また生徒による授業評価の数値も随分高くなっている。

<35>

「校内研修」を定期的実施しているが、時間を作ることが困難であり、十分であるとは言えない。

<36>

初任者研修制度やサポート体制はある程度整備されているが、新学級担任や初めての高校3年生の担任など、もっと広範囲に研修をする必要性がある。

<37>

「校外研修」をできるだけサポートしようとし、少しは改善されたが、十分ではない。校務や時間的問題もあり、参加しづらい状況である。

<38>

「研究成果の共有状況」芳しくない。教科会議等は開催されているが、研修内容の共有にまではいたっていない。一同に集まらなくても共有できる方法を実施する必要性がある。